

福田寺だより

発行

神奈川県小田原市飯田岡二五七

飯田山 福田 田 寺

住職 橋本尚信

弘法大師の国家観

仏教徒として今をどう見るか

真言宗における鎮護国家思想の内容

北朝鮮による拉致問題が騒がれている中、国家の安全、国家とは何かという問いが、国民の間で取り沙汰されています。そこで宗教的見地からこれを見てみようと思えます。

真言宗は古来、鎮護国家を主義、理想とする宗教であると言われてきました。その内容はどのようなものでしょうか。それを知るためには真言宗の開祖、弘法大師の国家観を

知る必要があります。

弘法大師空海の若いころの行状はおよそ、国家とは縁遠いように思われます。国の大学を中退し、宗教の道に入り、山野を跋涉して修行に打ち込んでいます。そして求道のため中国に渡り、密教の奥義を究め、師僧である恵果阿闍梨から全てを伝授されました。この時恵果は空海に、『早く日本に帰り、国家に奉り天下

に流布して密教を弘めなさい。そうすれば四海は治まり、人々は幸せになります。そうすることが、仏恩に報いることであり、国の為に忠となり、家に於いて孝となることです』と言ひ日本に帰しました。

日本に帰った空海は、自分が学んできた成果を国に報告し、その結果時の嵯峨天皇の信任を得て、東寺を賜り、鎮護国家の修法を開壇することになるのです。

空海が国家の為に修法する時の表明文を要約すると、『真言密教の法門は、四海同胞を安んじ、菩提を求めらるるものであり、国を護り、家を護り、己を安んじ他を安んずるの道である。』と言っています。四海同胞を安んじとは、天下国家の平和と国民全体の生活を守るということです。己を安んじ他を安んずるとは、新帝である嵯峨天皇のみならず、反対派の人々その他恩怨の別なく一切の人々の鎮魂を意味しています。

又、この中で天皇が尊敬されるのは国王であるからではなく、心身を清め己を律して、国民の為に身を削る王であるからであると言っています。つまり、空海にとっては、国王とは仁者にはかならないのであり、国家とは、そのような仁者に代表される平和国家を意味しているのです。

空海の鎮護国家の為の修法は、戦争のために祈祷したことは一度もありません。ひたすら、平和国家の建設を希求し、祈願したのです。

くりかえしますが、空海には、少しも国王の権力を美化するようなところはなく、無常観、平等観の上に立脚して、鎮護国家即平和国家の調和と秩序を尊重したのであります。

ここまで、お話ししてきましたと真言宗の鎮護国家思想というものが、少しはお分かり頂けたかと思えます。

ところで、住職は十月二十八日に石原慎太郎都知事と、わずかな時間

ですが、面談する機会を得ました。テレビで受ける印象よりも、気さくで温かみのある人に感じました。きっかけは、真言宗の若手僧侶が主催する大会に、小林よしのり氏とともに講師として参加してくれたので挨拶に伺った次第です。

この大会は、今年度は東寺の青年

◇ 老いを生きる ◇

最近のベストセラー本に、日野原重明著『生き方上手』や、石原慎太郎著『老いてこそ人生』があります。日野原さんは九十一歳の現役のお医者さんで、医者としての長い経験からのお話をまとめたものです。あの『太陽の季節』の石原慎太郎さんも、早七十歳とのことです。

僧が主催するということで、サブテーマに鎮護国家を掲げて行われました。『国家』という言葉に何か抵抗をおぼえるかもしれませんが、弘法大師の思想を掲げ、真の意味での『国家』観に真摯に向き合う若い僧の姿を見て、頼もしく感ぜられる大会でした。

高齢化社会の到来が現実のものになった証かと思いますが、年相応の感じ方というものは、その年齢に自分がついてみないとなかなかわかりません。住職も五十半ばになり、どうやら高齢者の気持ちが解る年齢になってきました。そこでこれらの著作物を見ながら、『老い』を

どのように受け止めたら良いのか考えてみたいと思います。

『生き方上手』では、日野原氏があまりにも、淡々と人生のあり方を語るの、深い内容の割りには浅薄に読みほしてしまう感があります。しかし、医者として四千人の最後を看取った経験から、人の最後のあるべき姿に関して述べたところは全く同感するところです。例えば、人の死が非日常化したことに不安を覚え「死を語る死の準備教育として子供に死の場面に遭遇させる必要性」とか、人には人にふさわしい終末が約束されるべきであるとかいう部分は共感できる場所です。やはり『生き方上手』とは『死に方上手』なんだと思います。

『老いてこそ人生』で、石原氏が述べんとするものは、積極的に老いに立ち向かうしかないということだと思えます。氏は「人間の生命の、宇宙の全存在全時間に比べてのはか

なさを知ってかかれば、逆にその限りある人生を、短くはかないが故にかけがえないものとして思い切って生きる意欲が湧いてくるはずだ。自分を生かし切るということこそが自分をこの世に与えてくれたものへの報恩であり、供養であり、聖なる菩薩の境地に達した人間ということです。」と述べています。

確かに石原氏は人生を積極的に生きてきた人だし、現在も果敢に人生に立ち向かっている人ですから納得はできますが、そうは言ってもなかなか思うようにいかないのが、また人生でもあるわけです。ただ菩薩の境地という言葉を使っているように石原慎太郎という人は、仏教に造詣が深い人です。近年『法華経を生きる』という書物を書いています。私は学生時代に氏が新興宗教を克明に取材して書いた『巷の神々』という本を読んで、感心させられたことを思い出しました。

さて、老いを受け止めるということとは、間接的に死を受け止めることであり、死を受け止めるということとは、死に向かつて如何に生きるかということでもあります。

弘法大師空海は自分の命の限りを知ったとき、穀類を断ち「命には限りがある。無理に生きようとは思わない。その時を待つつもりである」といって瞑想を修して入定されました。西行は死の前年の秋に自分の命の限界を自覚して、死ぬ場所を選び断食をして死を待ちました。そのとき作った歌が「ねがわくは花の下にて春死なんそのきさらぎの望月の頃」であり、陰暦二月の満月（十五日）に死ぬことを願いました。二月十五日は釈尊の入滅の日ですが、西行が死んだのは二月十六日でした。

誰でも死ぬことは決まっています。死から逃れられないのであれば、前向きにとらえて生きようという考えがあっても不思議ではありません。

新年厄除け薬師護摩供養

申し込み受付中

一月八日午後一時より修行

恒例の新年厄除け護摩を一月八日

午後一時より修行致します。護摩を焚く修行は、近年いろいろな所でされていきますが、正統に受け継がれているのは密教寺院であります。福田寺は、京都・東寺を本山とする真言密教の寺で、創建以来八百六十六年、密教寺院としての歴史を刻んで参りました。

記

期日・・・一月八日、午後一時より
祈祷料・・・三千元

祈祷内容・・・厄難消除(厄よけ)

身体健全、病魔退散、家内安全、交通安全、商売繁盛、業運繁栄、学業成就、合格祈願、安産祈願、子授け祈願、その他

申し込み・・・一月七日まで、電話可
電話 0465(36)2755
FAX 0465(37)6688

平成十五年厄年

男性

前厄 昭和三十八年生まれ
本厄 昭和三十七年生まれ
後厄 昭和三十六年生まれ

女性

前厄 昭和四十七年生まれ
本厄 昭和四十六年生まれ
後厄 昭和四十五年生まれ

元旦祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より一時まで、住職により新年の御祈祷が修法されます。ご自由に参拝ください。

昔暮れのいわ参り

古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは、寺の者に連絡してください。

いわ奴社を法説む会

毎月十五日に実施していますお経を読む会は、十月に百回目を迎えました。同時に「三教指帰」のお話も終了いたしましたので、一応一休みしています。新たな企画で、準備が整い次第ご案内いたしますので、しばらくお待ちください。